

鳥取大学産学・地域連携推進たより

2013 秋号

巻頭言

「仕組みを活かすこと、研究を厚くすること」

鳥取大学 理事（研究担当、環境担当）・副学長
田中 久隆

産学・地域連携推進機構の前身である地域共同研究センターが設立されて20年が経ちます。本機構の今日の立派な姿は、多くの先達や現在の教職員が苦労された賜物と私は思っています。報道機関など外部からも、鳥取大学の地域社会への貢献度は極めて高いと評価されています。これは本機構と関連の事務部門が、大学と地域社会・企業の橋渡しをしっかり果たしてきた証です。

この4月に研究及び環境担当の理事・副学長を拝命し、県や市町村、企業の皆さんといろいろな場で意見交換する機会がありました。その中で、我々大学がなすべき問題が2つあるように思いました。一つは地域社会からの要望に対して、どう対処していくかということです。大学は多くの意見交換の場を設けて、地域社会からの要望を聞いています。つまり意見を汲む仕組みはあります。しかし、浮き彫りにされた課題がうまくフィードバックされていない、消化して次に生かされていないと感じるのであります。高くて敏感なアンテナを張ると同時に、課題を消化して次に生かす、次につなげることが大切ではないかと考えます。

二つ目は、大学における研究の厚みを増すことです。地域社会からは毎年さまざまな意見・要望がでてくるでしょう。それに応えるには、研究の厚みを増すことが重要だと考えます。4月に就任された豊島新学長は、教育や地域貢献をしっかりと行いながら、これまで以上に研究に力を入れていく決意を表明されています。その方針に沿って、研究の厚みをもっと増して、得られた知見や成果を社会・地域に還元することが、鳥取大学の教育研究の理念「知と実践の融合」であると考えます。

上の二つを肝に銘じて活動すれば、これからも鳥取大学、あるいは産学・地域連携推進機構が地域社会から、より信頼され、期待され、そして大学も地域社会もお互いに一層発展していくものと確信しています。一丸となって、80点を100点に近づけましょう！



「鳥取大学湖山キャンパスの紅葉」

周囲の木々と比べても、格段に美しい赤色でした（撮影：三須部門長）。

(2012年11月下旬撮 EOS60Da+EF70-200F4L USM)

私たちちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

<特集記事>

◆鳥取県商工労働部との夏季恒例ソフトボール大会に逆転サヨナラ勝利！！！

本機構と鳥取県商工労働部は、5年前から8月初旬に両スタッフの親睦のため、ソフトボール大会を開催しています。今年は8月9日（金）に、同商工労働部との意見交換会の後、18:00から本学内のサッカー＆ラグビー場で開催しました。岡村商工労働部長、菅原機構長の挨拶の後、岸田副学長のプレイボール宣言で5イニング戦を開始しました。得点表は下記の通りです。

チーム名	1	2	3	4	5	計
県商工労働部	0	0	3	6	0	9
鳥取大学	0	1	3	3	3×	10

序盤は投手戦、中盤以降は打撃戦の展開になり、2点を勝ち越された最終回に、2アウトから鳥取県派遣職員で社会貢献課の永江職員が、タイムリー・ツーベースを打ち、逆転サヨナラ勝利しました。劇的な勝利に本学チームは興奮し、大いに盛り上りました。

その後の懇親会では、田中理事の乾杯の後、法橋理事より勝利チームにトロフィーの授与が行われ、両チームが試合の話で盛り上がり、お互いに交流を深めました。

これで本学チームは2連勝、両チームの対戦成績は2勝2敗1分となり、次回の戦いが楽しみになりました。



勝利インタビュー（菅原機構長）

かつて、土曜日が半ドンの時には、学内でもいろいろなチーム形成でソフトボールやボーリングなどの大会を開催し、仕事を離れての親睦をはかったものでした。最近は、その土曜日も週休2日ということで、また自動車通勤が増えたということで、なかなかこのような親睦を図る機会がなくなってしまっているのが残念です。そんな状況下で、商工労働部の皆さんとは、このように親交を深めることができており、しかもそれを数年にわたり継続できていること、大変うれしく思っております。

今回は上記、得点表をご覧いただいてもお分かりの通り、大変良い試合だったと自負しております。昨年に続き、鳥取大学の勝利ということで、優勝カップも機構内の定位置に据えられた感があります。これまでの勝敗も今回で2勝2敗、来年も勝利を目指して頑張りましょう。

①研究推進に関する事業報告

1. はりま産学交流会 7月度創造例会【7月19日(金) 開催：姫路商工会議所】

今回は、鳥取大学、近畿大学、大阪府立大学の3大学から6名の研究シーズの発表が行われました。本学からは工学研究科の藤村喜久郎助教が「生命体の優れた脳機能を模した自己組織化マップの活用事例と将来性」と題して、脳機能を模した自己組織化マップの活用事例として、指先で計測された脈派による健康状態の判定等について説明が行いました。さらには医学系研究科の栗政明



弘准教授は「がん化学療法剤探索バイオセンサーシステムの開発」でがんの化学療法や放射線治療に際して、細胞に生じるDNA損傷を鋭敏に検知するバイオセンサーの開発を説明しました。参加者は約60名で、本学の発表は、やや難解なテーマであったが、両先生ともに分かりやすい説明をされたので、会場から質問もあり好評であった。

2. 地域イノベーション創出 2013 in やまぐち【7月23日(火) 開催：海峡メッセ下関】

本事業は中国地域産学官コラボレーション会議（85機関）が主催で開催される中国地域で最大の産学官連携シンポジウムであり、年に1回開催されています。今回は山口県の海峡メッセ下関を会場として、総勢300名以上の関係者のもと盛大に開催されました。シンポジウムでは山口県知事、山口大学学長、中国経済連合会会長の挨拶の後、テルモ株式会社代表取締役社長 新宅祐太郎氏による「テルモのイノベーション戦略」と題した基調講演が行われました。講演ではテルモの体温計とともに歩んできた歴史や現在ホットな医療機器開発に関するイノベーション事例の紹介がなされました。また、産学官連携・イノベーション創出の取組紹介として、川崎市の訪問型ワンストップコーディネート支援活動 “出張キャラバン隊” を軸にした川崎モデル『産学連携／大手企業知財交流事業』」の紹介等が行われました。

3. 大学の研究戦略に関する講演会【8月26日(月) 開催：広報センター】

研究に関する国立大学を取り巻く環境及び本学の現状を理解し、本学の研究戦略の一助とするため、教育研究評議員及び各部局執行部教員等を対象にして、トムソン・ロイター社の甲斐真佐美シニア・アカウントマネージャーを講師に、「国立大学の研究の現状についてー外から見た鳥取大学ー」という題目で、講演会を開催しました（参加者：約50名）。甲斐氏は、大学の研究のグローバル化、国際競争力の強化のためには、大学の研究力を定量的に評価することの重要性を指摘され、Web of Science のデータベースを用いて本学の国際的な研究力を解析し、直近5年間の論文数は臨床医学（約27%）、植物＆動物科学（約12%）、化学（約10%）の順であること、論文の被引用数は分子生物学＆遺伝学の論文が世界平均を超えていることを提示されました。また、研究の量と質の向上には、インパクトファクターの付いている国際誌への投稿、自身の研究分野で引用される論文の傾向を知ること、国際共著を増やすことなどを指摘されました。



4. イノベーション・ジャパン 2013【8月29-30日(木、金) 開催：東京ビッグサイト】

本展示会はJST、NEDO主催で開催される日本最大級の大学見本市＆ビジネスマッチングのです。今年度は会場をビッグサイトに変更して400件もの大学展示ブースが出展され、参加者数は2日間で2万1千人にのぼりました。本学から「遺伝性疾患の新たな治療法シャペロン療法」生命機能研究支援センター 難波栄二教授、「黄砂・大気汚染成分(PM2.5)の家庭用モニタリング装置の開発」医学部 大西一成助教の2つの研究テーマが採択され出展しました。なお、前者のブー

スには同センターの檜垣克美准教授、高井知子研究員が参加して頂きました。両ブースともに企業訪問者から多くの質問が寄せられ、積極的な研究シーズ発信が出来ました。とくに大西先生シーズに関しては昨今の環境問題に対応するタイミングで実現性の高いテーマとして評価され、その後の多くの企業から面談希望がなされるなどの多くの成果が生まれました。

5. 鳥取大学発ベンチャー「ファインドパース株式会社」認定式

【9月4日（水）開催：広報センター】

鳥取大学発ベンチャーとして承認された「ファインドパース株式会社」の認定式が、報道陣など総勢50名以上の参加のもと盛大に開催されました。このファインドパース株式会社は、代表取締役CEOに本学大学院生の新垣久史氏が、取締役CROを工学研究科の石井晃教授が務めています。事業内容としては石井教授が研究している「ヒット現象の数理モデル」を利用したサービスを提供しています。このモデルを利用すると、企業から発信される広告宣伝の効果や、クチコミやうわさといった客同士のコミュニケーションの影響を解析・予測し、企業の広報戦略の構築に有益なツールとなります。モデルの利用・取扱いは一部の専門家に限定されるというデメリットがありました。そこで、ファインドパース株式会社では、このモデル解析をWEB上で提供し、専門家で無い企業の方でも利用しやすいシステムを実現しました。この会社ではシステムの利用やコンサルなどの様々なサービスを提供される計画となっています。



6. TNS登録研究会第3回合同発表会

【9月6日（金）開催：コカ・コーラウェストスポーツパーク鳥取県民体育館】

とっとりネットワークシステム（TNS）（運営委員長：菅原一孔機構長）は、とっとり産業フェスティバル2013&鳥取環境ビジネス交流会の企画事業として、TNS登録研究会第3回合同発表会を「地域の技術と環境を知る」と題して開催しました。地域住民の方への教育講演として、キッチンナノファイバー研究会を代表して、本学大学院工学研究科の伊福伸介准教授が「マリンナノファイバーの製造と利用技術～鳥取県で発生する廃カニ殻の有効活用～」、温暖化・黄砂・酸性雨を考える研究会を代表して、鳥取県衛生環境研究所（大気・地球環境室）の大呂忠司室長が「PM2.5について」を分かりやすく講演されました。また、TNS登録研究会のうち最多の企業会員をもつ、食品開発と健康に関する研究会を代表して、中野陽特任研究員がこの研究会の活動について詳しく説明されました。今回の発表会の参加者は65名（昨年より15名増）になり、好評の発表会になりました。



7. 平成25年度科研費説明会

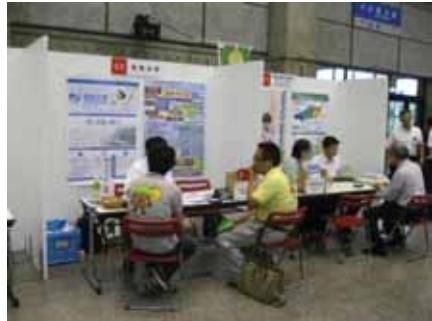
【9月9日（月）開催：医学部臨床講義棟、9月10日（火）開催：工学部大学院棟】

本学の平成26年度科研費採択率の増加を目指し、講師に明治大学の小澤芳明氏をお招きし、鳥取地区、米子地区で科研費説明会を開催しました。内容は、今年度の変更点と平成26年度公募案内について朝國誠司研究協力課長の説明の後、科研費のカリスマと呼ばれる小澤氏が、研究計画書の作成のポイントを分かりやすく講演され、最後に兼定孝財務課長が研究費を正しく使うための留意点を話されました。参加者は鳥取地区106名（昨年より14名増）、米子地区137名（昨年より59名増）でした。昨年度も同様に小澤氏による科研費説明会を開催したところ参加者は全体平均（22.3%）に比べ採

択率が高い（30.3%）という結果だったことから今年度の講演には熱心にメモを取る参加者が多くみられた。来年度の科研費採択率の結果が楽しみになりました。

8. 第9回しんきん合同ビジネス交流会【9月11日（水）開催：コンベックス岡山】

おかやま信用金庫等が主催する「しんきん合同ビジネス交流会」に、本学および中国地域産学官連携コンソーシアムが出展しました。このイベントは、『岡山の元気がここに集合！』をキャッチフレーズに、企業同士による“商談”と、相談機関等との“相談”を通じて、参加企業の「事業価値の向上」に寄与し、経済活性化の一助となることを目的として開催されたものです。当日は約400社が出展し、参加企業間で商談相手を事前に組み合わせする「強制お見合い」方式による商談が実施されるなど、活発な交流がなされました。本学は、参加企業様の経営上の問題点等を解決するための産学官連携に関する相談コーナー（アカデミックインターミディエイトコーナー）に出展し、多くの企業からの相談を受けました。この内、一部の相談については今後、共同研究等へ発展することも期待されます。



9. 機構HP、研究シーズ集HPのリニューアル

機構HP、研究シーズ集HPがリニューアルされ、アクセスが拡大しています。機構HPでは企業、一般、学内向けのページを色分けして作成しており、ユーザー毎の内容ページが閲覧できます。またイベントやニュースもユーザー毎に設定されていますので、簡単に必要な情報を入手できます。また共同研究・特許出願等に必要な各種届出書様式も共通タグ（上部）まとめられていますので、ご活用ください。さらに研究シーズ集HPには従来のコンテンツに加え、参考資料ダウンロードとしてこれまで機構主催事業等で発表された先生の配布資料などをアップしていますので、詳細な研究情報も入手可能になりました。また今後WEB上で情報発信を強化するため、Googleアナリティクスでの解析を行っています。現在まで（7月18日～9月30日）の訪問数2,856回、ユーザー数2,456名、ページビュー数8,027回にのぼり、その中で最も閲覧された個別シーズは125回の訪問数実績があります（鳥取大学、ロボットアクセス除く）。また訪問したユーザーの中で27.3%が検索エンジンルートで本ページを訪れていました。この様な解析結果をもとにSNS、検索エンジンの広告を活用した情報発信など新たな試みを拡げていく予定です。



②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 鳥取大学振興協力会西部地区会員懇談会及び交流会

【7月4日（木）開催：米子ワシントンホテル】

振興協力会西部地区懇談会及び交流会が開催されました。会員懇談会は、会長・学長をはじめ48名の参加があり、学生の県内企業への就職や振興協力会共同研究支援事業等について活発な意見交換が行われました。その後の交流会では、産学官連携事業の取組について、鳥取県商工労働部経済産業総室産業振興室の森



本室長、鳥取大学医学部の谷口美也子助教、株式会社エッグの3者から報告があり、会員及び教職員約65名が熱心に耳を傾けていました。また、懇親会も開催され、参加者がお互いに情報交換し親睦を深めました。

2. 韓国江原道ハンリム大学生による鳥取大学訪問

【7月8日（月） 開催：鳥取大学湖山キャンパス】



鳥取大学と連携協定を結んでいる南部町から、韓国江原道春川市にあるハンリム大学の日本学科生7名が鳥取大学を訪問しました。同町では、ハンリム大学の学生を年1回受け入れるホームステイ事業を平成8年から続けており（主催：南部町国際交流協会）、鳥取大学への訪問は3回目となります。当日は、地域学部附属芸術文化センターの西岡千秋教授による声楽の授業を体験し、鳥大生と一緒に日本の歌を練習しながら交流しました。

3. 竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連携協議会役員会 【7月18日（木）：広報センター】

県内の産学官民が連携して竹林の整備と竹材利用について取り組むことを目的とする、竹に関する連携協議会（略称）の平成25年度第1回目となる役員会が開催されました。佐野会長外11名が参加し、会の運営や今後の活動について話し合いました。来年3月には竹利用フェスティバルを開催する予定です。

4. 平成25年度中部地区産学官連携推進連絡会総会 【7月22日（月）：倉吉シティホテル】

中部地区における産学官連携を推進し、地域資源・産物の高付加価値化及び新産業展開のための情報交換やビジネスマッチングなど6次産業化の取組を行うことにより、地域の産業活性化を図ることを目的として、中部地区産学官連携推進連絡会総会が開催されました。会の運営方法、平成24年度の事業報告、平成25年度の事業計画、「いいもの塾」や企業誘致の取組など中部地区の主要な取組の紹介などの報告の後、活発な意見交換が行われました。

また、閉会後には第30回中部元気クラブが開催され、（株）バルコス 代表取締役 山本 敬氏の講演を約140名が聴講しました。交流会では中部産の地元食材を利用した料理が振る舞われました。

5. 平成25年度 第2回とっとり防災・危機管理研究会

【7月24日（水） 開催：鳥取大学工学部附属地域安全工学センター、鳥取県危機管理局災害対策本部室】



今年度第2回目の研究会を、会員23名の出席のもと開催しました。今回から新たな取組として、研究会所属の教員による研究紹介・活動報告を実施することとし、第1回目は「鳥取地震の震度分布の見直し」と題して西田 良平名誉教授に発表を行っていただきました。その後の研究会では、鳥取市防災指導員養成研修、消防庁の消防防災科学技術研究推進制度の採択、とっとり防災フェスタ2013等について意見交換を行いました。

6. 四町連携会議 in 琴浦町 【7月31日（水） 開催：琴浦町役場】

今年度第1回目の連携四町（琴浦町・大山町・南部町・日南町）の企画担当課会議が開催されました。本学からも法橋理事をはじめ3名が出席しました。各町の鳥取大学との連携事業計画等の報告の後、意見交換を行いました。意見交換では、鳥取大学との連携を鳥取県内他市町村等に紹介するため鳥取大学と四町でシンポジウムを開催したらどうか等の意見が出ました。また、風紋祭での出展サークルへの協力、とっとり産業フェスティバル2013への出展等についても話し合いました。今後も連携四町で意見交換会や共同事業を継続していくことを確認しました。

7. 鳥取大学地域貢献支援事業成果報告会 in 南部町 【8月2日(金)：南部町富有まんてんホール】

南部町と鳥取大学が連携して取り組んでいる鳥取大学地域貢献支援事業についての報告会を南部町で開催し、町職員や一般町民約40名が参加しました。本学からは、高橋 健司准教授（地域学部）から「法勝寺一式飾りの文化的価値と次世代への継承」、渡邊 文雄教授（農学部）から「切り干し竹の子の健康効果」と題しそれぞれ報告がありました。会場からは熱心な質問もあり、南部町特産の切り干し竹の子を使用したお茶の試飲も行われるなど、参加者は興味深い研究成果に聞き入りました。



8. 平成25年度研究成果報告会（工学部附属地域安全工学センター、持続的過疎社会形成研究プロジェクト） 【8月9日（金） 開催：大山町保健福祉センターなわ】

鳥取大学工学部附属地域安全工学センターの研究シーズの紹介を、大山町で開催しました。当日は大山町役場職員を中心に約65名の参加があり、大学院工学研究科 黒岩 正光准教授から「海岸域の防災・環境・利用について」、大学院工学研究科 太田 隆夫准教授から「社会資本のアセットマネジメント～人口減少のもとでの老朽化対応に向けて～」、農学部 日置 佳之教授から「国立公園の歩道－その実態とあるべき姿－」と題し、それぞれ報告していただきました。その後、上記3名の教員に大学院工学研究科 松原 雄平教授、谷本 圭志教授、また大山町長 森田 増範氏を加え、法橋理事の司会のもと「大山町をフィールドとした地域課題～鳥取大学との連携について考える～」と題した意見交換会を実施し、参加者は熱心に聞き入っていました。今回の報告・意見交換をもとに、鳥取大学と大山町の連携事業がさらに発展することを期待しています。



9. 鳥取県商工労働部等と鳥取大学との意見交換会 【8月9日（金） 開催：広報センター】

鳥取県商工労働部、鳥取県産業技術センター、鳥取県産業振興機構、及び鳥取大学が一堂に会し、相互の一層の連携強化を図ることを目的として意見交換会を開催しました。本意見交換会は、例年年1回程度開催しているもので、今年度は総勢39名が出席しました。

今年度の主な取組について各機関から報告を行った後、県商工労働部からの提案議題である戦略産業雇用創造プロジェクト、地域イノベーション戦略推進地域及び同戦略支援プログラム、鳥取県の東南アジア戦略などについて積極的な議論が行われました。なお特に企業誘致については、県・大学・鳥取県産業振興機構など各機関による組織的な連携が必要ではないかといった意見が出されました。



10. 東部地区関係機関と鳥取大学との意見交換会

【8月21日（水） 開催：広報センター】

鳥取県東部地区関係機関と鳥取大学との意見交換会を、鳥取大学広報センターで開催しました。県からは斎藤東部振興監を始め、東部振興課や各事務所の幹部職員が計11名出席し、また大学からは田中理事、細井理事、法橋理事を始めとした計13名の教職員が出席しました。東部地区関係機関からは、猪・鹿の有効活用に関する取組、湖山池の浄化対策、中山間地域対策、陸上海岸及び水尻海岸の侵食対策等について提案があり、



活発な意見交換が行われました。

11. 第4回西部総合事務所と鳥取大学との意見交換会 【8月23日（金）：鳥取県西部福祉保健局】

鳥取大学と鳥取県西部総合事務所の幹部職員が一堂に会して、西部地区の活性化方策、今後の一層の連携強化を図ることを目的に年1回開催されています。今回で4日目の意見交換会であり、両機関から計25名が出席しました。西部総合事務所からは、境港の木皮の処理対策や大山町産エキナセアの有効活用等について協力依頼がありました。また本学からは、産学官連携事業や大学COC事業への協力依頼等を行い、熱のこもった意見交換となりました。



12. 鳥取大学振興協力会第2回役員会及び交流会 【8月26日（月）開催：ホテルモナーク鳥取】

今年度第2回目の役員会と交流会を開催しました。役員会には30名の参加がありました。役員の一部改選についての了承、振興協力会の活動報告と活動計画の説明のあと、意見交換を実施しました。県内企業への学生の就職について、振興協力会の共同研究事業の在り方等について活発な意見交換されました。交流会では、「鳥取県産農水産物を利用した食品開発の共同研究事例」と題し農学部の渡邊文雄教授による講演が行われ60名の参加者は熱心に聞き入っていました。講演の後は懇親会を実施し、今回初めて参加教員の自己紹介を行いました。また、参加者は会員相互または会員と教員の情報交換を行い親睦を深めました。



13. 鳥取砂丘除草ボランティア 【8月28日（水）開催：鳥取砂丘】

今回で9回目となる鳥取砂丘の除草を本学教職員及び学生のボランティアで行いました。教育・研究を通じて鳥取砂丘と深い関わりを持つ本学は、郷土の誇りでもある鳥取砂丘の景観を後世に残そうと、鳥取砂丘景観保全協議会主催の除草事業に参画しています。豊島学長をはじめ約100人が参加し、夕暮れの砂丘で心地よい汗を流しました。



14. 明治大学創立者出身地への学生派遣プログラム2013成果報告発表会

【8月30日（金）開催：鳥取市鹿野町総合支所、及び佐治町総合所】

明治大学が主催する「創立者出身地への学生派遣プログラム2013」が、8月初旬と下旬の計6日間、鳥取市鹿野町及び佐治町をフィールドに実施されました。明治大学のほか、鳥取大学、鳥取環境大学からも学生が参加し、地域住民・行政・関係団体の方々と熟議形式で課題を絞り込むとともに、現地でのフィールドワーク・取材等を行いました。最終日の8月30日には、当該プログラムに協力していただいた地域の方々にその成果発表を行い、空き家対策やI J Uターン対策、耕作放棄地の利活用などについて若者の視点から政策提言が行われました。



15. とっとりグランマ俱楽部第6期修了式 【8月31日（土）開催：広報センター】

今年度で6期目となるとっとりグランマ倶楽部が、6月29日、7月13日、7月27日、8月10日、8月31日の計5日間に渡り、鳥取大学広報センターを会場に行われました。「学びから始める『人がつながる場』づくり」をテーマに、明治大学・鳥取大学の教員のほか、島根県浜田市で子ども支援や社会教育等を行っている団体や鳥取県自閉症協会など、様々な分野の講師が教壇に立ち、38名の受講生が熱心に受講しました。修了式では、佐分利実行委員長から修了生に対し、修了証明書が交付されました。



16. 鳥取県生活環境部と鳥取大学との意見交換会 【9月2日（月）開催：広報センター】

鳥取県生活環境部と鳥取大学との意見交換会を、鳥取大学広報センターで開催しました。両者のより一層の連携強化を図ることを目的に毎年開催しているもので、県生活環境部からは中山部長を始め幹部職員18名が、また大学からは田中理事、細井理事、法橋理事を始め計18名が出席しました。

生活環境部からは、バイオマス等未利用資源を活用した技術の研究や、公衆衛生獣医師の確保、ごみ減量・リサイクルの取組等について要望・提案があり、活発な意見交換が行われました。



17. とっとり産業フェスティバル2013&鳥取環境ビジネス交流会2013

【9月6日（金）～7日（土）開催：コカ・コーラウエストスポーツパーク鳥取県民体育館】

9月6日～7日の二日間にわたり、「とっとり産業フェスティバル2013&鳥取環境ビジネス交流会」が開催されました。基調講演として、有限会社ニコラデザイン・アンド・テクノロジー 代表取締役 水野 操氏により3Dデータとテクノロジーの活用による新規事業創出の可能性についての講演が行われたほか、企業展示・商談会、山陰発シーズ発表会、TNS合同発表会、産学官マッチングプレゼン等が行われました。なお、高等教育機関、試験研究機関等による研究発表については従来のポスター展示を改め、ブース形式による出展を行うことで、より一般来場者へ分かり易い展示が行われました。また、小さなお子さま向けのイベントとして、因幡・秋の手づくりまつりや、善ちゃんの笑ってタメになるこどもサイエンス講座などが行われ、会場は多くの家族連れで賑わいました。



18. 因幡・秋の手づくりまつり 【9月7日（土）：コカ・コーラウエストスポーツパーク鳥取県民体育館】

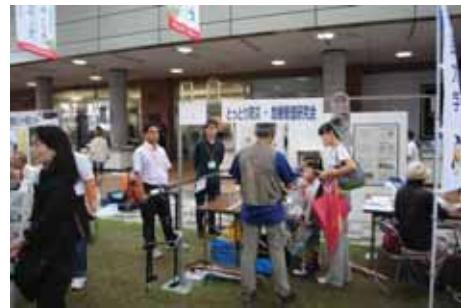
鳥取ものづくり道場では、9月7日、鳥取県民体育館で開催されたとっとり産業フェスティバル2013&鳥取環境ビジネス交流会2013の中で、因幡・秋の手づくりまつりを行いました。竹笛やくねくねブロックなどの他に、今回から、県内の中部や米子ものづくりカフェ、鳥取市立児童館、学び支援ネットinとっとり、組み木創作の会・東粟倉おもちゃ村などの参加により12ブースを設け、親子約300名が来場しものづくりを楽しみました。



19. 鳥取大地震70年とっとり防災フェスタ2013 【9月8日（日）：鳥取駅前バード・ハットほか】

今年は鳥取大地震から70年目の節目の年であり、「鳥取大地震70年とっとり防災フェスタ2013」と題して、鳥取駅前周辺で開催されました。鳥取大学もとっとり防災・危機管理研究会で香川教授・浅井准教授・野口助教が中心となってブース

を出展しました。P波S波の伝播模型や研究成果のポスター展示等を行いました。また、紙ぶるるや新聞紙スリッパや紙食器の作成体験を行いました。作成体験には小さなお子さんから高齢の方まで幅広い年齢層の方が参加してくださいました。また、駅前サンロードには西田名誉教授や香川教授等が中心となって取りまとめられた「鳥取大地震70年鳥取県地震防災巡回パネル展示～鳥取大学の研究～」の展示も行われ、多くの人がパネルに見入っておられました。



20. 日南町および大山町でのインターンシップ 【9月9日（月）～20日（金）：日南町・大山町】

大学院工学研究科の学生が日南町及び大山町でインターンシップを実施しました。日南町では3名の学生が9月9日から13日の間、日南町役場各課の事業内容の説明や職場見学をした後、主にバスの乗降調査に従事しました。また、大山町では1名の学生が9月17日から20日までの間、同町御来屋地区の「お散歩マップ」の作成に従事しました。20日は「御来屋地区まちづくり会議」に作成したマップを持って参加し、マップ作製を通して感じた御来屋地区の印象や改善点などについて提案を行いました。参加した学生からは、「役場の仕事のイメージができた」や「議会の傍聴をすることができてよかった。」などの感想が聞かれました。約1か月後に各町で報告会を実施する予定です。

21. 平成25年度鳥取大学公開講座

【7月13日（土）、27日（土）：医学部総合教育棟、8月3日（土）：境港市保健相談センター、8月31日（土）、9月14日（土）：倉吉交流プラザ】

7月13日・27日（土）に米子会場（米子キャンパス）で、8月31日・9月14日（土）に倉吉会場（倉吉交流プラザ）で、各会場2回に渡り、公開講座「知の最前線～地域の絆を考える～」を開講しました。米子会場では、2日間で128名が受講し、54名が修了証書を授与されました。倉吉会場では、55名が受講し、23名が修了証書を授与されました。また、8月3日（土）には、境港市で「公開講座 in 境港」を開催し、男女共同参画推進室の星川特命准教授が「子どもはね、みんなで育てるものなんだよ」と題し講義を行いました。当日は18名の参加者がありました。



22. ものづくり指導者養成講座 【7月～8月、県内各地】

ものづくり道場では、県内各地で指導者養成講座を開催しています。鳥取ものづくり道場では、7月13、14日に鳥取こども科学館において養成講座を開催し、18名が参加しました。受講生は7月28日に鳥取市こども科学館ととうふちくわの里で開催された「因幡・夏の手づくり教室」の実地演習を実施し、みごと9名が合格し修了認定しました。中部ものづくり道場では、6月23日、7月6日に伯耆しあわせの郷において、養成講座を開催し、19名が参加しました。受講生は8月11日に伯耆しあわせの郷で開催された「中部・夏の手づくりまつり」で実地演習を実施し、2名が合格し修了認定しました。米子ものづくり道場では、8月4日に米子市児童文化センターで開催された「伯耆・夏の手づくりまつり」において、実地演習を実施し、3名が合格し修了認定しました。この様にものづくり道場では多くの地域の指導者を輩出しており、現在で200名程度の仲間が活躍しています。



③知的財産管理運用に関する事業

1. 山陰（鳥取・島根）発新技術説明会 【7月12日（金）：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）】

平成19年度から毎年東京で開催してきた「山陰（鳥取・島根）発 新技術説明会」を、第7回目として今回初めて大阪で開催致しました。今回の新技術説明会は、「ライフサイエンス」と「材料」を技術分野として、鳥取大学、島根大学、鳥取県産業技術センター、島根県産業技術センター、島根県保健環境科学研究所の5機関から合計10件の新技術が発表されました。来場者は、関係者を除いて約90名であり、一時満席となる盛況ぶりでした。各発表の後には、発表者と来場者との名刺交換や、個別相談が多数行われ、発表技術の実用化に向けた今後の展開が期待されます。



2. 山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2013

【9月6日（金） 開催：コカ・コーラウエストスポーツパーク鳥取県民体育館】

山陰地域の大学・高専・研究機関におけるイチ押しの研究成果を発表し、企業等への技術移転や産学官連携の促進を目的として、「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり2013」を、鳥取県民体育館・メインアリーナで開催しました。本発表会は、9月6日～7日に開催された「とっとり産業フェスティバル2013」における催しとして開催したもので、鳥取大学、島根大学など山陰の研究機関10機関から合せて10テーマの新技術を発表しました。本学からは、農学部・森 信寛 教授が「残留農薬の簡易検出等に利用できるアセチルコリンエステラーゼの大量生産」と題して発表しました。本発表会は、企業や鳥取県内の支援機関、フェスティバル出展者などから約100名の方が聴講されました。



3. 中国地域さんさんコンソ新技術説明会 【9月20日（金） 開催：JST東京本部別館ホール】

中国地域の大学・高専など各研究機関における最新の研究成果を発表し、各研究機関が保有する新技術の企業等への技術移転を図ることを目的として、9月20日（金）に、「中国地域さんさんコンソ新技術説明会」を、東京のJST東京本部別館ホールで開催しました。今回の新技術説明会では、山口大学、島根大学、広島大学、県立広島大学、広島市立大学、岡山大学、鳥取大学の7機関から、「ライフサイエンス、情報・通信、ものづくり、環境」の技術分野で、9件の特許出願済み技術が発表されました。本学からは、農学部・薮田 行哲 准教授と工学研究科・大木 誠 准教授が新技術の説明を行いました。



当日は、発表者・スタッフを除いて、104名の方にご来場いただきました。今後は、来場いただいた企業との共同研究や技術シーズの実用化へ向けて発展することが期待されます。

4. 知的財産インターンシップ 【8月～9月】

知的財産インターンシップは、学生、教職員等を対象にして、特許等の知的財産権について理解を深め、これを研究開発や製品開発等へ役立てられる人材を育成するため、毎年8月～9月に実施しているものです。今年度は、1) 知財



セミナー、2) インターンシップ実習①（発明実習）、3) インターンシップ実習②（実務実習）の3つのコースで実施しました。知財セミナーには、学生・教職員から合計7名が参加し、またインターンシップ実習①では、滝本弁理士の指導の下に、特許等の明細書の書き方を学ぶ発明実習が3日間の日程で行われ、学生2名、教職員2名が参加ました。インターンシップ実習②では、9月24日からの3日間の日程で、院生、学部生及び教職員の合計3名が、大阪の青山特許事務所において、実務を通して弁理士の仕事を学ぶ実習が行われました。

催し物のお知らせ

○鳥取大学サイエンス・アカデミー in Yonago

【日時：第2、4土曜日（原則） 開催：鳥取県西部総合事務所2階講堂（10/5, 10/26）、鳥取大学医学部総合教育棟2階323講義室（11/9, 11, 16）】

月 日	テーマ	学部等・講師
10月 5日（土） (9:45~12:00)	鳥取県における新しいグリーン・ツーリズムの展開について	農学部 生物資源環境学科 教授 古塚 秀夫
	エコツーリズム国際大会に向けて	エコツーリズム国際大会2013鳥取実行委員会 副会長 石村 隆男
10月 26日（土） (10:00~12:00)	大山山麓の河川と地下水について	工学研究科 社会基盤工学専攻 教授 檜谷 治
	大山とその周辺の植物について	大山自然歴史館 館長 矢田貝 繁明
11月 9日（土） (10:00~12:00)	日野川の水・土砂環境について ～土砂移動の現状～	工学研究科 社会基盤工学専攻 助教 梶川 勇樹
	日野川ハンザキ物語	日南町住民課 町民生活室 主事 吉田 博一
11月 16日（土） (10:00~12:15)	中海のウナギ	産学・地域連携推進機構（米子地区地域連携部門） コーディネーター 増田 紳哉
	レンズを通して見た大山・日野川・中海	NPO法人 大山中海観光推進機構 理事 柄木 孝志

○とっとり駅南教室

【日時：毎月第1土曜日（原則）13:30~15:00 開催：鳥取市立中央図書館】

月 日	テーマ	学部等・講師
10月 5日（土）	誰が芸術を作るのか？ 「社会と関わる芸術」からの考察	地域学部 講師 小泉 元宏
11月 16日（土）	知られざるきのこワールド ～その多様性と可能性～	農学部 助教 早乙女 梢
12月 7日（土）	文化財の保護科学	地域学部 講師 李 素妍
2月 1日（土）	身近な地域を活用した健康づくり	地域学部 准教授 関 耕二
3月 1日（土）	楽しみと健康のために積極的な”自己管理者”になる秘訣！	医学部 講師 谷村 千華